

# トラックにAED搭載

## 人命救助の仕組み構築

### 協立運輸

【愛知】協立運輸（小林永典社長、名古屋守山区）は、トラックにAED（自動体外式除細動器）を携帯し、いざという時にドライバーが人命救助できる仕組みの構築を進めている。

まずは10台に搭載予定で、順次全車両に導入していく。セコムの通信機能を備えたAEDサービスを活用する。

冷蔵・冷凍食品配送を得意とする同社は、4月に設立50周年を迎えた。現在、中部圏を中心に営業所を置く茨城、滋賀、兵庫の各県

を結ぶ関東・関西圏への実運送を手掛ける。今回のトラックへのAED



AEDを持つ小林社長

D搭載は、次の50年に向けて会社の安全・環境意識を高めるための取り組みの一环で、小林社長自身も愛知県トラック協会尾東支部の瀬戸旭守山部会長として、社会貢献と地域の安全を率先していく立場を示す。

30年間業界活動にも力を注ぐ小林氏は「こういった取り組みで、全国津々浦々を走っているトラックのイメージが良くなり、ドライバーもいざという時に人命救助ができるという意識を高めてくれたらうれしい」と趣旨を説明。

その上で、「新型コロナウイルス禍でも大きな変動がなかった食料品配送を担う感謝の気持ちと併せ、ドライバーが少しでも地域の安全・安心を届ける役割を持つことを伝えていきたい」と話している。

（梅本誠治）